



にじのへやだより

病児保育室にじのへや
蕨市病児・病後児保育事業

令和 6 年5月発行 (vol.1)

こんにちは。病児保育室にじのへやと申します。

平成 31 年 4 月 1 日に蕨市初の病児保育室として開園し、今年で 6 年目となりました。

日頃より、地域の皆様にはあたたかいご支援・ご理解をいただきまして感謝申し上げます。

病児保育室にじのへやは、保育園等に通園されているお子さまだけではなく、通われていないご家庭でも冠婚葬祭等のご予定の日にお子さまが体調不良になってしまった際にご利用いただくことができます。

専任の保育士・看護師がお子さまの体調に合わせて、ゆったりと心地よく過ごせるように寄り添わせていただきます。

新年度が始まり、1 カ月が経ちました。新しい環境に慣れ始めると同時に、お疲れも出てくる頃かと思います。

お子さまや保護者の皆様が安心して過ごすことのできる、あたたかい環境づくりを目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



4 月
利用者数

〈利用内訳(年齢別)〉22(名) 登録者数 12(名)

0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	学童
0	5	10	3	1	0	3	0

利用児童の疾患

- 1、上気道炎 8 名
- 2、インフルエンザ 7 名
- 3、RSウイルス 3 名
- 4、咽頭炎 2 名
- 5、気管支炎 2 名

季節の変わり目や環境の変化により、体調を崩すお子さまが多く見られました。

また、インフルエンザのお子さまも多くお預かりしました。安心してご利用いただけるよう感染対策に努め、隔離室を使用しながら一人ひとりの体調に合わせて無理なく、ゆったりと過ごせるようにしました。



保育の様子

大人気の新幹線やプラレール、おままごと、ブロック、ボール転がし等のおもちゃがたくさんあるよ！

一人ひとりの体調に合わせて、コットで横になったり、午前午睡をしています。



こいのぼり製作をしました！ちぎったり、くしゃくしゃにした花紙を袋の中に入れ、キラキラのシールで鱗を表現しました☆



発熱のおはなし



人の体温は、脳の視床下部にある体温調節中枢で「熱を作る働き(熱産生)」と体の表面から「熱を発散する働き(熱放散)」によって、ほぼ一定に保たれています。発熱の原因の多くは、細菌・ウイルス感染症によるものですが、子どもは免疫機能が十分に発達しておらず、様々な感染症にかかりやすいため、発熱しやすいです。また、体温調節の機能も未熟で、環境による温度変化の影響を受けやすいことも子どもが発熱しやすい原因の一つです。

感染症法では体温が37.5℃以上を「発熱」、38.0℃以上を「高熱」と定義しています。

お子様の発熱に気づいたら、まず「正しく熱を測ること」と「受診のタイミングを見極めること」が重要です。

【体温の正しい測り方】

体温計の先端が、わきの下の最も深い場所に対して45度で密着するように当てます。

- ・わきの下が汗でぬれていると正確に測定できないので、タオル等で拭いてから測定しましょう。
- ・食事や入浴、泣いた後などは、体温が上昇しています。30分くらい経過してから測るようにしましょう。



【受診のタイミング】

大至急・あるいは至急受診

- ・38.0℃以上の生後3か月未満児
- ・けいれんを起こしている
- ・呼吸がおかしい・苦しそう
- ・ぐったりしている、顔色が悪い、機嫌が悪い
- ・食事・水分・睡眠がとれない

日中に受診する

- ・発熱していても…
- 機嫌がよい
- 食事・水分・睡眠がとれている

これはあくまでも目安です。

迷った時は、埼玉県小児救急電話相談(＃8000)では 24 時間対応で看護師が相談に応じているので、利用をご検討ください。



【ホームケア】

・水分補給を行う

発熱すると汗をたくさんかくため、こまめな水分補給を行きましょう。おしっこの回数や量が減る、泣いても涙が出ない、肌や唇がかさかさしている場合は、脱水の可能性があるので受診しましょう。

・清潔にする

体に付いている細菌やウイルスを洗い流しましょう。高熱でお子さまの苦痛が強い時は、ぬるま湯で絞ったタオルで体を拭きましょう。苦痛が少ない時は、短時間のシャワー浴は大丈夫ですが、湯船には入らないようにしましょう。また、細菌やウイルスが体の中に入る一番の入り口は「口」なので、歯みがきを行い口の中をきれいにしましょう。体調が悪く歯みがきが難しい場合は、湿らせたガーゼなどで口の中を拭いたり、うがいをするようにしましょう。

・更衣をする

発熱時や解熱時は汗をたくさんかきますが、ぬれたままの下着は不快だけでなく、体を冷やしてしまいます。お子さまの状態に合わせて、こまめに下着をとりかえましょう。

・解熱剤の使い方

解熱剤は、「〇〇℃以上になったら必ず使用する」というものではありません。高熱でも、活気がまずまずあり食事・水分・睡眠がとれていれば、必ずしも解熱剤を使用する必要はありません。

発熱で体がだるく、食事・水分・睡眠がとれない、ぐずってしまう場合に、解熱剤を使用しましょう。

解熱剤の効果でだるさが軽減している間に、食事・水分をとったり、休息することで体調の回復が期待できます。

・登園・登校再開のタイミング

お通いの保育施設や学校に、発熱後の登園・登校についてきまりがある場合があるのでお問合せください。

また、病気によっては登園・登校再開にあたり、医師の「意見書」や保護者による「登園届」が必要な場合がありますので、併せてご確認ください。



発熱が症状の一つで、これからの季節に流行する病気に「アデノウイルス感染症(咽頭結膜熱(プール熱)等)」がありますが、医師の許可があればじのへやでお預かりできることになりました。詳しくはお問合せください。